

## 高校球児が求める指導者像

直井 勇人<sup>1)</sup> 渡邊 裕也<sup>1)</sup> 伊藤 香菜子<sup>1)</sup> 加瀬 弘樹<sup>1)</sup> 伊藤 雅充<sup>2)</sup>

Hayato Naoi<sup>1</sup>, Yuya Watanabe<sup>1</sup>, Kanako Ito<sup>1</sup>, Hiroki Kase<sup>1</sup>, Masamitsu Ito<sup>2</sup>: Ideal coach proposed by high school baseball players.

和文抄録：

指導者と選手の関係は、選手の心理面やパフォーマンスなど様々な面に影響を及ぼすため、良好な関係の構築が効果的なコーチングを行う上で必要不可欠である。そのためには、指導者が選手の視点に立ち、選手が指導者に対して何を求めているのかを知ることが必要である。本研究では、高校球児が抱く1) 教わりたい指導者像, 2) 教わりたくない指導者像, それぞれの要素を明らかにすることを目的とした。調査は、S 県の高校球児を対象にオンラインアンケートを実施し、241 名から有効回答を得た。1) では 16 のカテゴリと 44 のサブカテゴリ, 2) では 16 のカテゴリと 40 のサブカテゴリが出現した。それらのカテゴリから高校球児は、確かな指導力を有しながらも選手の主体的な活動を支援し、明るさや愛情を持って選手と接し、親密な関係を築く指導者に教わりたいと思う傾向があり、インテグリティに欠けた指導者に教わりたくないと思う傾向があると考えられる。

**Key words:** baseball, good relationship, coaching, learning

**キーワード:** 野球, 良好な関係, コーチング, 学び

### 1. 緒言

2012 年 12 月、大阪市立高校で起こった体罰による痛ましい事件に端を発し、スポーツ指導現場での体罰問題が顕在化し、社会問題に発展した。そのようなスポーツ界全体の状況を憂慮し、文部科学大臣は 2013 年 2 月、「スポーツ指導における暴力根絶へ向けて～文部科学大臣メッセージ～」と題し会見を行い、昨今の状況を「日本のスポーツ史上最大の危機」と捉え、「スポーツ指導から暴力を一掃する」という基本原則に立ち戻ると共に、「『新しい時代にふさわしいスポーツの指導法』が確立されるよう、全力を尽くす」と表明した。それを受け、2013 年 4 月に「スポーツ指導者の

資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）」が設置され、同年 7 月に報告書（文部科学省、2013）が提出され、「新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ」について今後の方策が提言された。そして、2014 年 6 月に「コーチング推進コンソーシアム」が設置され、「グッドコーチに向けた『7つの提言』」（文部科学省、2015）が発表された。さらに「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』の作成事業」を公益財団法人日本体育協会が受託し、2016 年 3 月、我が国において育成すべき「グッドプレーヤー像」やそのようなプレーヤーを育成する「グッドコーチ像」、「コーチに求められる資質能力」が明確化された（日本体育協会、2015、2016）。このように近年、

1) 日本体育大学大学院 体育科学研究科

〒158-0081 東京都世田谷区深沢 7-1-1

2) 日本体育大学 体育学部

〒158-0081 東京都世田谷区深沢 7-1-1

1. *Nippon Sport Science University Graduate School of Health and Sport Science*

7-1-1 Fukasawa, Setagaya, Tokyo 158-0081, Japan

2. *Nippon Sport Science University Faculty of Sport Science*

7-1-1 Fukasawa, Setagaya, Tokyo 158-0081, Japan

スポーツ界全体において体罰等の諸問題の健全化とスポーツ選手のためのグッドコーチの養成が課題とされている。それは高校野球界においても例外ではない。

1915年に現在の全国高校野球選手権大会にあたる第一回全国中等学校優勝野球大会が実施され(森岡, 2015), 2018年には100回目の記念大会を迎えており, これまで先人達の努力により高校野球は発展, 拡大し, 高校野球選手(以下, 高校球児)はもとより多くの人々に夢や感動を与えてきた。一方, その裏では指導者による体罰をはじめとした選手の健全な成長を阻害する問題が数多く起こり, 高校野球に影を落としてきた。桑田(2010)のプロ野球選手に対するアンケート(質問紙回収数270, 回収率90%のうち有効回答数は199で73%)によれば, 47%の選手が高校時代に「指導者から体罰を受けたことがある」と答え, 31%の選手が「怪我を我慢してのプレーを強要された経験がある」, 25%の選手が「指導者や先輩からやらされていた野球だったと思う」と答えるなどの現状が明らかとなっている。高校野球界にとって節目となる第100回全国高等学校野球選手権記念大会を迎え, 今後, 高校野球文化の更なる発展や, 高校球児に対しよりよいコーチングをしていくために, 高校野球指導者の資質能力の向上は不可欠である。

先述したスポーツ指導者の資質能力向上のための施策を見ると, 指導者が選手と良好な関係を築くことの必要性が示されている。「グッドコーチに向けた『7つの提言』」(文部科学省, 2015)では, 「プレイヤーの人格及びニーズや資質を尊重し, 相互の信頼関係を築き・・・」と述べられており, 「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』の作成事業」(日本体育協会, 2015, 2016)では, 「グッドコーチに求められる資質能力」として, 「自分自身のコーチングを形作る中心にあるもの(理念・哲学)」, 「スポーツ指導を行う上で必要となるスポーツ科学の知識・技能(スポーツ知識・技能)」と並び, 「プレイヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力(人間力)」を挙げている。指導者と選手の関

係は, 選手の自信などの心理的な側面に影響を及ぼす(Côté & Gilbert, 2009)だけでなく, 選手のパフォーマンスにも影響を及ぼし(Greenleaf et al., 2001; Mageau & Vallerand 2003), 選手の精神的, 身体的な発達に影響する(Jowett & Cockerill, 2002)。このことから指導者がコーチングを行う際に選手と良好な関係を築くことは不可欠であり, コーチング戦略の中心にする必要がある(Côté & Gilbert, 2009)。杉山(2017)は, 「まずは相手がどのような考えをされていて, どういう価値観をもっているのかを知ること」が良好な関係を築くために重要であると述べている。また福島(2007)は, 「関係が進展し親密化するためには, お互いのことをよく知る必要がある。」と述べている。つまり, 他者の考えを知ることが良好な関係の構築に繋がると考えられる。Côté & Gilbert(2009)は指導者に必要な知識として, 専門的知識(professional knowledge), 対自己の知識(intrapersonal knowledge)と並び, 対他者の知識(interpersonal knowledge)を挙げている。対他者の知識とは, 対人関係に関する他者を理解するための知識である。国際コーチングエクセレンス評議会(ICCE)が策定した「スポーツ・コーチングに関する国際的枠組み(ISCF)」(ICCE et al., 2013)においても, 対他者の知識(interpersonal knowledge)の重要性が述べられている。このように, 指導者が選手と良好な関係を築くことは, 効果的なコーチングをおこなう上で不可欠であり, そのために野老・坂井(2005)は, 「競技者の視点に立ち, 競技者がコーチに対して何を求めているのか」を知り, 「競技者はなぜコーチを必要とするのか」という根源的な問いを発することも不可欠な手続きである」と述べている。だが, 日本のスポーツ集団の特徴として, 「指導者は家長的な権威を持ち, 成員はそれに逆らえない状況にある」(阿江, 2000)と述べられているように, 選手が指導者に対し自らの要望を本音で発することが難しい状況もあると考えられる。

以上のことから, 高校球児が求める指導者像の要素を明らかにすることは, 高校野球指導者が高校球児と良好な関係を構築し, 効果的なコーチン

グを行う上での重要な知見になりうると考えられる。また、このように高校球児の要望に焦点を当てた調査を行うことは、野球指導の現場において起きる様々な出来事に対し、適切かつ妥当なコーチング行動を選択する上での一助となると考えられる。コーチング活動は、複雑な因果関係によって絡み合いながら事前には正解と断定することのできないような不確実さを持つ指導上の選択肢を、瞬時に意思決定して行動に起こすことが迫られる(會田・船木, 2011)。この瞬時のコーチング活動をより正確かつ妥当な選択をしていくためにも、高校球児が抱く指導者の指導に対する要望に焦点を当てた調査が実施されることに意義があると考えられる。

## II. 目的

本研究では、高校野球指導者の高校球児との良好な関係の構築に寄与すべく、高校球児が求める指導者像の要素を明らかにすることを目的とした。

## III. 方法

### 1. アンケート調査の方法

S 県高等学校野球連盟に所属する公立高校 32 校に協力を依頼し、1 年生 410 名、2 年生 428 名、計 838 名の高校球児を対象として、オンラインアンケート調査を実施した。アンケート項目として、「あなたはどのような指導者に教わりたいですか? 重要度の高い順に 5 つお聞かせください。」(以下、教わりたい指導者像)、「あなたはどのような指導者に教わりたくないですか? 重要度の高い順に 5 つお聞かせください。」(以下、教わりたくない指導者像) の 2 項目をそれぞれ自由記述で質問した。またこの自由記述のアンケートに指導者は関与しない状態であった。アンケートの留め置き期間は 4 週間とした。アンケート用紙のサンプルは表 1 の通りである。なお、本研究は日本体育大学倫理審査委員会の承認を得て行われた(承認番号第 017-H044 号)。

### 2. 分析の方法

得られた回答を表計算ソフト (Microsoft Excel) に入力し、「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」の 2 項目の分析を質的分析方法 (Côté, et al., 1993) を参考に行った。客観性、信頼性を確保するため、コーチング学を専門とする研究者 2 名とコーチング学を専攻している大学院生 2 名と筆者で分析を行った。コーチング学を専門とする研究者は、大学教授と助教授を務める 2 名であり、大学院生は、硬式野球の指導歴 5 年を有する者と、サッカー競技歴 27 年を有する者 2 名であった。この 4 名と野球指導歴 8 年の筆者で分析実施者を構成した。分析の際は、コーチング学を専門とする助教授と大学院生、筆者の 4 名で複数回に渡り分析を行い、その都度出された分析結果を基に、コーチング学を専門とする教授と筆者とで毎回、確認作業を行った。

まず、得られた回答の中でオンラインアンケートへのアクセスのみで回答がないデータ、質問に未回答のデータ、IP アドレスが重複し、かつ内容が酷似しているデータを削除し、削除の対象とならなかった回答を精読し、それぞれの回答が含有している意味を解釈した。その際、解釈が完全に困難な場合は除外した。除外した回答の例として、「年」「下手くそ」といった回答があった。「年」の場合は、年齢のことを述べていたとしても若い指導者が良いのか年を重ねた指導者が良いのか判別がつかないためであり、「下手くそ」ではノックが下手、采配が下手など様々な指導者の「下手」の要素が考えられ不明瞭であるため除外した。解釈の結果、1 つの回答に 2 つ以上の意味を含有している回答を意味単位ごとに分割した(意味単位の分割)。次に、意味が一致する意味単位を集め、意味単位を適切に表す標題を付した(表題化)。そして、表題化されたもの、されなかった意味単位を類似した項目ごとにまとめ、サブカテゴリとした(サブカテゴリ化)。さらに、類似したサブカテゴリをまとめ、カテゴリとした(カテゴリ化)。最後に、カテゴリとサブカテゴリのそれぞれの項目ごとに意味単位数、割合を計算した。今回の調査では、より広く高校球児の声を明らかにしよう

と、なるべく回答の限定化を避ける質問を選択した。その結果、性格についての回答や、指導方法についての回答などが混在していたため、性格についての回答とそれ以外の回答に分けて表題化以降のデータを分析した。参考として分析データの

一部を掲載する(表2)。これらの分析作業を行う過程で、回答者の主訴を正確に読み取り、且つ適切にカテゴリ化を行うために、それぞれの回答の文脈の微細な違いにまで言及し、分析者全員の合意が得られるまで話し合いを行った。

## 高校球児が求めるグッドコーチ像

### 1. 研究の説明と同意

「高校球児が求めるグッドコーチ像」に関する研究 オンラインアンケート調査

このたびは、本研究にご協力いただき誠にありがとうございます。・・・省略

#### 【説明事項】

本研究にご協力いただき、ありがとうございます。  
研究について下記の説明事項をご一読の上、研究参加に同意していただける場合には下の確認チェックボックスにマーク(クリック)し、次ページからの質問にお答えください。・・・省略

#### 1. 同意の確認

- 上記の説明事項を読み、本研究への参加に同意します [選手]  
 上記の説明事項を読み、本研究への参加に同意します [保護者]

### 2. 属性情報

1. 学年を教えてください

・・・省略

### 3. 指導者像

・・・省略

2. あなたはどのような指導者に教わりたいですか? 重要度の高い順に5つお聞かせください。(例: ○○な指導者)

最も重要

2番目に重要

3番目に重要

4番目に重要

5番目に重要

3. あなたはどのような指導者に教わりたくないですか? 重要度の高い順に5つお聞かせください。(例: ××な指導者)

最も重要

2番目に重要

3番目に重要

4番目に重要

5番目に重要

表1 アンケート用紙のサンプル

※データ量が膨大な且つ特殊なため、実際のアンケート用紙を加工、省略したものをサンプルとして掲載する。

教わりたい指導者像

回答	①意味の解釈	②意味単位の分割	③表題化	④サブカテゴリ化	⑤カテゴリ化
優しい人			優しさがある	優しさがある	温かみのある性格をしている
面白い	人として面白い		ユーモアがある	陽気さがある	活気に溢れた性格をしている
一生懸命	一生懸命指導してくれる		熱心さがある	意欲がある	活気に溢れた性格をしている
野球に熱い人	熱意がある		熱心さがある	意欲がある	活気に溢れた性格をしている
野球に熱がある指導者	熱意がある		熱心さがある	意欲がある	活気に溢れた性格をしている
一生懸命な指導者			熱心さがある	意欲がある	活気に溢れた性格をしている
時間を守る			規範意識がある	社会性がある	誠実な性格をしている
onとoffの切り替えをする			けじめがある	理性的に行動する	理性的な性格をしている
気分屋じゃない人			感情に左右されない	感情的でない	理性的な性格をしている
気分で話さない			感情に左右されない	感情的でない	理性的な性格をしている
ひいきしない人			偏見をしない	偏見や差別をしない	指導に偏りがない
全員平等に見てくださる指導者			平等性がある	偏見や差別をしない	指導に偏りがない
顔で選ばない人	選手を見た目で判断しない		評価に公平性がある	公平に評価する	指導に偏りがない
選手の疲労を考え定期的にオフをくれる			休養をしっかりとする	適切に休養をとる	心身の状態に配慮する
選手の体などのことを考えてくれる指導者			体調に配慮してくれる	体調に配慮したアプローチを行う	心身の状態に配慮する
スパルタ	厳しく指導をしてくれる		厳しく指導してくれる	厳しく指導を行う	選手の能力を最大限に高めようとする
厳しく	厳しく指導をしてくれる		厳しく指導してくれる	厳しく指導を行う	選手の能力を最大限に高めようとする
成長させる為に怒る指導者			厳しく指導してくれる	厳しく指導を行う	選手の能力を最大限に高めようとする
説明が短く体で覚えさせてもらえる指導者		説明が短い	簡潔に話してくれる	分かりやすく話す	選手の理解が深まる指導を心掛ける
説明が短く体で覚えさせてもらえる指導者		体感させてもらえる	具体的に指導してくれる	指導に具体性がある	指導に偏りがない
レベルが高い	指導力がある		的確な指導ができる	的確に指導を行う	選手の理解が深まる指導を心掛ける
教え方がうまい指導者			的確な指導ができる	的確に指導を行う	選手の理解が深まる指導を心掛ける
レベルにあった指導	選手のレベルに合った指導をする		個々に応じた指導をしてくれる	丁寧に指導を行う	選手の理解が深まる指導を心掛ける
統率力のある指導者			チームをまとめる力がある	チームをまとめる力がある	チーム力を最大化させることができる
采配のうまい指導者			采配が上手い	采配が上手い	チーム力を最大化させることができる
楽しくできる人	野球を楽しくやらせてもらえる		楽しく野球を行ってくれる	野球を楽しく行う	ポジティブな雰囲気を作り出す
やって楽しい	楽しく野球を行う		楽しく野球を行ってくれる	野球を楽しく行う	ポジティブな雰囲気を作り出す
褒めてくれる	褒めてくれる		褒めてくれる	選手を勇気づける	ポジティブな雰囲気を作り出す
応援してくれる指導者			励ましてくれる	選手を勇気づける	ポジティブな雰囲気を作り出す
キャリアハイな指導者	野球の実績がある		実績がある	豊かな野球の経験がある	豊かな専門的知識がある
甲子園出場経験がある方			実績がある	豊かな野球の経験がある	豊かな専門的知識がある
合理性	合理的な練習をさせてくれる		質のよい練習を行える	効率的な練習を行う	質の高い練習を行う
少ない時間で質のいい練習を提案する人	質のよい練習をさせてくれる		質のよい練習を行える	効率的な練習を行う	質の高い練習を行う
学校でも同じように接してくれる	常に同じような接し方をしてくれる		常に同じ態度で接してくれる	選手と接する	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
自分のことを理解してくれている指導者			選手のことを理解してくれる	選手理解がある	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
挫折を味わった指導者	自身のことを理解してくれる		選手のことを理解してくれる	選手理解がある	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
はいと答ったらしっかり受け答えをしてくれる人	コミュニケーションがしっかりしている		積極的にコミュニケーションをとる	選手と積極的にコミュニケーションをとる	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
普通の時に話しかけてくださる指導者	指導場面以外でも話しかけてくれる		積極的にコミュニケーションをとる	選手と積極的にコミュニケーションをとる	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
先生と生徒の関わりが深い指導者	選手と深い関係性を築ける		信頼関係を築ける	選手と信頼関係を築ける	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
信頼がある			信頼関係を築ける	選手と信頼関係を築ける	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
一緒に練習などをしてくれる	選手と一緒に練習をする		選手と一緒に練習をする	選手と同じ目線に立つ	選手との良好な関係性の構築を心掛ける
自分意見をしっかり言える指導者	自分の意見をしっかり言わせてくれる		選手の意志を尊重してくれる	選手の主体性を重んじる	選手の動機が内在化するように支援を行う
選手の意見を象徴する	選手の意見を尊重してくれる		選手の意志を尊重してくれる	選手の主体性を重んじる	選手の動機が内在化するように支援を行う
おしゃべりなじゃなくアドバイスしたいにおしえてくれる指導者	押し付けるのではなくアドバイスをしてくれる指導者		助言をしてくれる	選手の主体性を重んじる	選手の動機が内在化するように支援を行う
怒らず	怒らない		怒らない	制御行動をとらない	選手の動機が内在化するように支援を行う
否定をしないよう	否定しない		否定をしない	制御行動をとらない	選手の動機が内在化するように支援を行う
暴言を吐かない指導者	暴言を言わない		暴力・暴言がない	制御行動をとらない	選手の動機が内在化するように支援を行う
手を出さない	暴力を振るわない		暴力・暴言がない	制御行動をとらない	選手の動機が内在化するように支援を行う
技術	×				
言動	×				
家で	×				
40代の指導者	×				
しっかりできる	×				
精神	×				
年	×				

表2 分析データ（一部抜粋）

※データ量が膨大なため、実際の答データの一部を抜粋して掲載する。

IV. 結果

高校球児に対しアンケート調査を行ったところ、310名（37.0%）の回答が得られ、そのうち有効回答数は241名（77.7%）であった。「教わりたくない指導者像」では1086、「教わりたくない指導者像」では1050の意味単位（以下、MU）が得られた。それらを質的分析方法で分析した結果、「教わりたくない指導者像」では16のカテゴリと44のサブカテゴリ、「教わりたくない指導者像」では16のカテゴリと40のサブカテゴリが得られた（表3, 4）。「教わりたくない指導者像」と「教わりたくない

い指導者像」のそれぞれのカテゴリのうち15カテゴリにおいて意味内容が対となっており、同一尺度となっていた。以下、「教わりたくない指導者像」のカテゴリを【】、サブカテゴリを[]、「教わりたくない指導者像」のカテゴリを《》、サブカテゴリを〈〉で表すこととし、同一尺度上にある「教わりたくない指導者像」と「教わりたくない指導者像」のカテゴリはまとめて示すこととした。

【活気に溢れた性格をしている】《活気のない性格をしている》両カテゴリにはそれぞれ[陽気さがある][意欲がある]〈意欲に欠ける〉〈陽気に欠ける〉〈自信に欠ける〉といったサブカテゴ

	カテゴリ			サブカテゴリ		
	名称	MU数	%	名称	MU数	%
性格	活気に溢れた性格をしている	129	11.9	陽気さがある	67	6.2
				意欲がある	62	5.7
	温かみのある性格をしている	85	7.8	優しさがある	46	4.2
				愛情がある	39	3.6
	誠実な性格をしている	45	4.1	社会性がある	27	2.5
				真剣さがある	13	1.2
				謙虚さがある	5	0.5
	理性的な性格をしている	26	2.4	理性的に行動する	15	1.4
				感情的でない	11	1.0
	選手の理解が深まる指導を心掛ける	185	17.0	丁寧に指導を行う	75	6.9
				的確に指導を行う	55	5.1
				分かりやすく話す	37	3.4
				指導に具体性がある	18	1.7
	豊かな専門的知識がある	121	11.1	豊かな野球の経験がある	71	6.5
				豊かな野球の知識がある	50	4.6
	選手との良好な関係性の構築を心掛ける	121	11.1	選手と積極的にコミュニケーションをとる	31	2.9
				選手理解がある	29	2.7
				選手と信頼関係を築ける	25	2.3
				選手と同じ目線に立つ	22	2.0
				選手との距離感を大切に	12	1.1
				常に同じ態度で選手と接する	2	0.2
	選手の動機が内在化するように支援を行う	79	7.3	選手の主体性を重んじる	45	4.1
				制御行動をとらない	34	3.1
	ポジティブな雰囲気を作り出す	64	5.9	選手を勇気づける	28	2.6
				野球を楽しく行う	28	2.6
				選手とフレンドリーに接する	8	0.7
	人間性を高める指導を行う	43	4.0	社会性を高める指導を行う	23	2.1
				人間性を高める指導を行う	15	1.4
				精神性を高める指導を行う	5	0.5
	厳しさと優しさを効果的に使い分ける	39	3.6	厳しさと優しさの両面がある	22	2.0
			厳しさと優しさのメリハリがある	17	1.6	
指導に偏りが無い	38	3.5	臆服や差別をしない	34	3.1	
			公平に評価する	4	0.4	
質の高い練習を行う	33	3.0	効率的な練習を行う	27	2.5	
			練習内容を工夫する	6	0.6	
心身の状態に配慮する	28	2.6	適切に休養をとる	20	1.8	
			体調に配慮したアプローチを行う	6	0.6	
			野球と私生活のバランスに配慮する	2	0.2	
チーム力を最大化させることができる	27	2.5	明確なビジョンがある	10	0.9	
			采配が上手い	8	0.7	
			チームをまとめる力がある	5	0.5	
			勝利に導ける	4	0.4	
選手の能力を最大限に高めようとする	23	2.1	厳しく指導を行う	17	1.6	
			選手の長所を伸ばす	6	0.6	
合計	1086	100.0	合計	1086	100.0	

表3 教わりたい指導者像

りが含まれていた。選手と同じように元気があることや、熱心な指導をする指導者が良いという指摘があった。そして、やる気のない言動をとること、試合中に愚痴を言うような行為を好まないという意見があった。

【温かみのある性格をしている】《温かみに欠けた性格をしている》両カテゴリにはそれぞれ「優しさがある」「愛情がある」〈愛情に欠ける〉〈優しさに欠ける〉といったサブカテゴリが含まれていた。優しく接してくれることや、目標に対して選手に寄り添うこと、一人一人を大切にするような指導者に指導されたいという指摘があり、選手

を馬鹿にするような行為や優しさがない指導者には教わりたくないという指摘があった。

【誠実な性格をしている】《不誠実な性格をしている》の両カテゴリにはそれぞれ「社会性がある」「真剣さがある」「謙虚さがある」〈謙虚さに欠ける〉〈社会性に欠ける〉〈真剣さに欠ける〉といったサブカテゴリが含まれていた。指導者自身も時間を守ることや、練習中に煙草を吸わないこと、あるいは選手に対し真剣に向き合い、試合が負けているような状況でも諦めない姿勢をもつことが教わりたい指導者像として挙げられた。また、指導者自身の誤りは認め謝れるような誠実性が指摘され

	カテゴリ			サブカテゴリ		
	名称	MU数	%	名称	MU数	%
性格	不誠実な性格をしている	138	13.1	謙虚さに欠ける	69	6.6
				社会性に欠ける	38	3.6
				真剣さに欠ける	31	3.0
	活気のない性格をしている	75	7.1	意欲に欠ける	44	4.2
				陽気さに欠ける	24	2.3
				自信に欠ける	7	0.7
	感情的な性格をしている	51	4.9	感情に左右される	48	4.6
				感情を引き摺る	3	0.3
	温かみに欠けた性格をしている	16	1.5	愛情に欠ける	15	1.4
				優しさに欠ける	1	0.1
	選手の動機の外在化を促進させる	279	26.6	制御行動をとる	256	24.4
				主体性を重んじない	23	2.2
	選手の理解を促進させる指導ができない	132	12.6	指導が丁寧でない	56	5.3
				指導が的確でない	36	3.4
				話が分かりにくい	31	3.0
				指導に具体性がない	9	0.9
	指導に偏りがある	70	6.7	臆惧や差別をする	67	6.4
				公平に評価しない	3	0.3
	選手との良好な関係性を構築できない	68	6.5	コミュニケーションをとらない	25	2.4
				選手理解が乏しい	24	2.3
				良好な関係を築くことができない	19	1.8
	専門的知識が乏しい	66	6.3	野球の知識が乏しい	35	3.3
				野球の経験が乏しい	31	3.0
	チーム力を最大化できない	42	4.0	ビジョンがない	28	2.7
				チーム理解が乏しい	6	0.6
				勝利に導けない	4	0.4
				采配が下手	4	0.4
	ポジティブな雰囲気を作り出さない	32	3.0	選手を勇気づけない	21	2
				野球を楽しく行わない	9	0.9
				笑顔がない	2	0.2
心身の状態に配慮しない	25	2.4	適切に休養をとらない	15	1.4	
			体調に配慮したアプローチを行わない	10	1.0	
質の低い練習を行う	22	2.1	効率の悪い練習を行う	19	1.8	
			練習内容を工夫しない	3	0.3	
指導に甘さがある	17	1.6	厳しくすべき時に厳しく指導できない	12	1.1	
			厳しさと優しさのメリハリがない	5	0.5	
精神主義的な考え方をする	10	1.0	根性論	8	0.8	
			精神論	2	0.2	
人間性を高める指導をしない	7	0.7	人間性を高める指導をしない	5	0.5	
			精神性を高める指導をしない	2	0.2	
合計	1050	100.0	合計	1050	100.0	

表4 教わりたくない指導者像

ており、教わりたくない指導者像においても選手に指導していることを指導者自身ができているというような点が挙げられていた。さらに言葉遣いについても指摘された。

【理性的な性格をしている】《感情的な性格をしている》の両カテゴリにはそれぞれ「理性的に行動する」「感情的でない」〈感情に左右される〉〈感情を引き摺る〉といったサブカテゴリが含まれていた。「はじめがしっかりしている」「自らの機嫌によって態度を変えない」「自分の機嫌によって選手との接し方が変わる」「私情を表に出す」といった点が指摘された。

【選手の理解が深まる指導を心掛ける】《選手の理解を促進させる指導ができない》の両カテゴリにはそれぞれ「丁寧に指導を行う」「的確に指導を行う」「分かりやすく話す」「指導に具体性がある」〈指導が丁寧でない〉〈指導が的確でない〉〈話が分かりにくい〉〈指導に具体性がない〉といったサブカテゴリが含まれていた。的確で丁寧に細かく指導することを指導者に望んでいると指摘された。また「自分の考えをうまく言葉にして伝えることが出来る」といったような伝え方についての回答もみられた。教わりたくない指導者の要素として、「意味もなく走らせる」「練習内容の意図

教わりたい指導者像			
選手の気持ちをおわかってくれる人	自分をしっかりと理解しようとしてくれる人	細かいことを教えてくれる指導者	挫折を味わった指導者
楽しく野球ができる	気分屋じゃない人	話しやすい	選手目線で話をしてくれる指導者
価値観の押し付けをしない	毎日練習が楽しいと思える指導者	理不尽な事で怒らない指導者	怪我防止に重点を置く指導者
的確なアドバイスしてくれる指導者	一緒に練習などをしてしてくれる	一人一人を大切にしてくれる指導者	長時間練習をしない
迷った時にしっかりと相談に乗ってくれる	気分が話さない	自分の考えを否定しない指導者	いつも元気で明るい
常に怒らず笑顔でいる指導者	程よく叱ってくれる	練習中でも場を和ませてくれる指導者	根性論をあまり出さない指導者
野球の技術などしっかりと教えてくれる	明るい指導者	芯がぶれない	紅白戦をやってくれる指導者
休みをくれる	選手と距離が近い	感覚を言葉で伝えられる	笑顔を大切にしている指導者
暴力を振るわない人	厳しい	効率的な練習をする指導者	熱心な指導者
選手たちの意見もうまく取り入れてくれる	好き嫌いをしない指導者	能力で差別しない指導者	学校でも同じように接してくれる
元気がある方	丁寧に教えてくれる指導者	短時間で集中して練習できる指導者	ユーモアがある指導者
選手目線と向き合ってくれる指導者	一緒に野球を楽しんでくださる方	野球を愛している指導者	信じてくれる指導者
熱心に指導してくれる指導者	愛がある指導者	野球がより好きになれる	人格否定をしない
選手が飽きないメニューを考える	のびのびプレーできる	基礎から教えてくれる	私情を表に出さない指導者
最新の野球科学を重要にする	選手とのコミュニケーションがとれる	人間性を教えてくれる	強い心を育ててくれる指導者
野球と自由時間の両立	とにかく勝ちにこだわる指導者	礼儀を大切にしている指導者	選手との距離が近い人
時に厳しく時に優しく	練習を強要させない指導者	素行がよい	時間を守る指導者
選手とコミュニケーションを沢山取ってくれる	質のいい練習をしてくれる人	努力や過程を評価してくれる	暴言を吐かない指導者
厳しいこともしっかりと言える指導者	礼儀正しい指導者	高校球児としてのあり方を教えてくれる	自分が悪かったら素直に認めてくれる人
ノックが上手い指導者	全員平等に見てくださる指導者	切り替えが素早い方	気分が指導しない指導者
褒めるところは褒める	統率力のある指導者	矛盾したことを言わない	冗談話を話してくれる指導者
しっかりと意味のある練習をしてくれる	基本に忠実な指導者	信頼感がある	練習中にタバコを吸わない指導者
理想とするチームが明確な指導者	練習と一緒にやってくれる人	いつも笑顔の指導者	正しい言葉遣いができる
思いやりのある人	約束を守る	堅苦しくならない指導者	野球を愛している指導者
しっかりと認めてくれる人	新しい野球の考え方を持っている指導者	言っていることに説得力のある指導者	挨拶を返してくれる人
教わりたくない指導者像			
選手の気持ちがわからない人	理不尽で怒鳴り散らす指導者	差別をする	昔の野球を押し付ける指導者
暗い指導者	小さいことですぐ怒る人	道具を大切にしない指導者	否定から入る指導者
悪いプレーを一回しただけで怒る指導者	自分に自信を持ってない指導者	短気な指導者	選手を萎縮させる指導者
自分の意見ばかり主張する指導者	知識がない	縛りが多い指導者	同じ練習しかない指導者
選手を自分の駒としか思っていない指導者	質より量の指導者	自分の思想をおしつける	話しかけてもそっけない指導者
説明が長い	教え方が分かりにくい	計画性のない指導者	笑わない指導者
選手の好き嫌いがあがる指導者	ノックが下手	一度しか言ってくれない	自分のミスを認めない人
野球の知識がない指導者	自分が出来てないのに偉そうに言う	最良をする指導者	お気に入りを作る指導者
休みをくれない	選手によって温度差をつける指導者	ダメなものをダメと言わない指導者	自主性を大事にしない
なにかあれば昔の伝統ばかりを掘り出してくる	怒ると物に当たる指導者	頭が固い指導者	選手の体調を考えない
暴力を振るう指導者	話筋が通ってない指導者	命令型の指導者	言っていることが毎回違う
練習にこない	未経験者	独裁的な人	試合でのムードを落としてくる指導者
時間にルーズ	自分がえらいと思ってる指導者	練習中寝る指導者	権力を乱用する指導者
考え方が古い	勝ちにこだわらない	怪我をしていても無理やりやらせる指導者	指摘の仕方が下手な人
やる気のないような言動をする指導者	選手を全く褒めない	タバコを選手の前で吸う指導者	試合中にブツブツと愚痴を言う
理想とするチーム像が明確でない指導者	愛情のない指導者	集合が多いコーチ	起動哀楽がない指導者
選手とコミュニケーションがとれない指導者	負けた敗因を選手だけのせいにする指導者	休憩時間が短い指導者	野球が楽しくなくなる指導者
気分屋な人	一緒にいて楽しくない人	声が小さい	嫌味を言ってくる
挨拶を返さない指導者	選手よりも先に諦める人	威圧的	冬練習ばかりやらせる人
精神論ばかりの指導者	選手との間に壁がある	人間力がない人	非効率な練習をする指導者
練習メニューが少ない指導者	いちいち昔の自慢話をしてくる指導者	弱音を吐く	ヘラヘラしている
ぐちぐちうるさい指導者	選手をバカにしてくる指導者	選手との距離がある	緊張感がない
給水をさせない指導者	技術を教えてくれない監督	評価をしない指導者	目的や効果が不明な練習をさせる指導者
ノックが長い指導者	変に堂々としている指導者	努力を認めない指導者	プレー改善のヒントを与えてくれない指導者
説教が長い指導者	体罰をする指導者	プライドが高い指導者	自分の実績にこだわる指導者

表5 回答データ

※参考資料として、実際の回答データの一部を抜粋して掲載する。



が分からない」といった練習の目的を明瞭としないことについて指摘されていた。

【豊かな専門的知識がある】《専門的知識が乏しい》の両カテゴリにはそれぞれ「豊かな野球の経験がある」「豊かな野球の知識がある」〈野球の知識が乏しい〉〈野球の経験が乏しい〉といったサブカテゴリが含まれていた。「常に新しい野球を求める指導者」という回答にあるように、知識を持っているかどうかだけでなく、野球を追求する姿勢を求めている指摘があった。

【選手との良好な関係性の構築を心掛ける】《選手との良好な関係性を構築できない》の両カテゴリにはそれぞれ「選手と積極的にコミュニケーションをとる」「選手理解がある」「選手と信頼関係を築ける」「選手と同じ目線に立つ」「選手との距離感を大切にす」「常に同じ態度で選手と接する」〈コミュニケーションをとらない〉〈選手理解が乏しい〉〈良好な関係を築くことができない〉といったサブカテゴリが含まれていた。選手とのコミュニケーション、選手の気持ちへの理解といった指摘や、「この人を甲子園に行かせたいと思える指導者」というような慕う思いを持てる人を望むといった回答があった。他にも「一緒に練習に参加してより選手に近い立場で教えてくれる」「選手との距離が近い」「部活と学校生活との接し方に差がない」といった回答があった。「あいさつを返してくれない指導者」というように、挨拶を返すというところにも言及されていた。

【選手の動機が内在化するように支援を行う】《選手の動機の外在化を促進させる》の両カテゴリにはそれぞれ「選手の主体性を重んじる」「制御行動をとらない」〈制御行動をとる〉〈主体性を重んじない〉といったサブカテゴリが含まれていた。本カテゴリには、暴言や暴力について言及され、暴言や暴力を振るう指導者には教わりたくないという回答がみられた。また、練習を強要すること、指導者が納得するようなプレーができないと怒られる、価値観を押し付けてくるといった回答があった。

【ポジティブな雰囲気を作り出す】《ポジティブな雰囲気を作り出さない》の両カテゴリにはそれ

ぞれ「選手を勇気づける」「野球を楽しく行う」「選手とフレンドリーに接する」〈選手を勇気づけない〉〈野球を楽しく行わない〉〈笑顔がない〉といったサブカテゴリが含まれていた。ここでは「応援してくれる」「野球を楽しませてくれる」といった回答があった。また「笑顔を大切にしている」といった回答もみられた。教わりたくない指導者においては、選手を褒めないことや、楽しくプレーができないといった回答があった。笑わない指導者にも教わりたくないという回答があった。

【人間性を高める指導を行う】《人間性を高める指導をしない》の両カテゴリにはそれぞれ「社会性を高める指導を行う」「人間性を高める指導を行う」「精神性を高める指導を行う」〈人間性を高める指導をしない〉〈精神性を高める指導をしない〉といったサブカテゴリが含まれていた。「礼儀」「人間的な成長」「強い心を育てる」といった点での指導が望まれており、教わりたくない指導者像としてこれらを教えないことが挙げられた。

【厳しさと優しさを効果的に使い分ける】《指導に甘さがある》の両カテゴリにはそれぞれ「厳しさと優しさの両面がある」「厳しさと優しさのメリハリがある」〈厳しくすべき時に厳しく指導できない〉〈厳しさと優しさのメリハリがない〉といったサブカテゴリが含まれていた。「時に優しく時に厳しく指導してくれる」「厳しい時と優しい時のメリハリをつけてくれる」といったことが望まれており、教わりたくない指導者像ではその逆であり、厳しい指導ができないことが挙がっていた。

【指導に偏りが無い】《指導に偏りがある》の両カテゴリにはそれぞれ「臆戻や差別をしない」「公平に評価する」〈臆戻や差別をする〉〈公平に評価しない〉といったサブカテゴリが含まれていた。教えることや、評価をすることにおいて平等で公平であることが指摘された。特定の選手のみに興味を示すことや、試合に出場させることが望まれないという指摘があった。

【質の高い練習を行う】《質の低い練習を行う》の両カテゴリにはそれぞれ「効率的な練習を行う」「練習内容を工夫する」〈効率の悪い練習を行

う〉〈練習内容を工夫しない〉といったサブカテゴリが含まれていた。短時間で質の高い練習をさせることや、新しい情報を取り入れて、より良い練習に向け改善する姿勢が望まれていた。長時間の練習であり、さらにその質が低いことや、とにかく走らせるといったことが望まれないと指摘された。

【心身の状態に配慮する】《心身の状態に配慮しない》の両カテゴリにはそれぞれ〔適切に休養をとる〕〔体調に配慮したアプローチを行う〕〔野球と私生活のバランスに配慮する〕〈適切に休養をとらない〉〈体調に配慮したアプローチを行わない〉といったサブカテゴリが含まれていた。疲労を考慮した休みの導入や、障害を予防すること、プライベートの時間を与えてくれることなどが望まれており、休日の少なさや活動後のケアを十分にさせないことが望まれないということであった。

【チーム力を最大化させることができる】《チーム力を最大化できない》の両カテゴリにはそれぞれ〔明確なビジョンがある〕〔采配が上手い〕〔チームをまとめる力がある〕〔勝利に導ける〕〈ビジョンがない〉〈チーム理解が乏しい〉〈勝利に導けない〉〈采配が下手〉といったサブカテゴリが含まれていた。「采配上手」「統率力があること」「勝負に勝てる」といったことや、「理想とするチームが明確な指導者」といったことが望まれていた。「発言に一貫性がない」「チームの空気を壊す」「勝たせてくれない」「指示が遅い」といった回答などが教わりたくない指導者像として挙げられた。

【選手の能力を最大限に高めようとする】カテゴリには〔厳しく指導を行う〕〔選手の長所を伸ばす〕といったサブカテゴリが含まれていた。「成長させる為に怒る指導者」「自分のよいところを見つけてくれる」というような回答があった。

《精神主義的な考え方をする》カテゴリには〈根性論〉〈精神論〉といったサブカテゴリが含まれていた。「根性論のみを唱える指導者」「全てが精神面でどうにかなると思っている指導者」という回答が教わりたくない指導者として挙がっていた。

## V. 考察

本研究では、高校球児が求める指導者像の要素を明らかにすることが、高校野球指導者が高校球児と良好な関係を構築し、効果的なコーチングを行う上での重要な知見となりうると考えられるため、S県の高校球児を対象に、「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」についてアンケート調査を行った。今回、高校球児の本音を引き出し、できるだけ加工されていない選手の声を高校野球指導者に届けるために、オンラインアンケート、無記名、自由記述で調査を行い、質的分析方法(Côté, et al., 1993)を参考に分析を行った。考察では、今回明らかになった結果から、まず、高校球児がどのような指導者に教わりたいと考えているのか、どのような指導者に教わりたくないと考えているのか、上位のカテゴリからおおよその傾向を明らかにしていく。次に、高校球児の要望を踏まえて、指導者はどのように指導をしていくことがよりよいのかについて、コーチング学の立場から各カテゴリを考察し、最後に本研究の課題について述べていく。

### 1. 高校球児の求める指導の傾向

教わりたい指導者像にて最も多くのMU数を得た【選手の理解が深まる指導を心掛ける】と、3番目に多くのMU数を得た【豊かな専門的知識がある】、そして教わりたくない指導者像において《選手の理解を促進させる指導ができない》が3番目のMU数を得ていることから、選手自身の競技力向上のために指導力のある指導者を求めていると考えられる。また、教わりたい指導者像にて2, 3, 5番目に多くのMU数を得ている【活気に溢れた性格をしている】【選手との良好な関係性の構築を心掛ける】【温かみのある性格をしている】から、明るさや親密さなどをもとにした指導者との良好な関係性を求めていると考えられ、教わりたくない指導者像においても《不誠実な性格をしている》が2番目に、《活気のない性格をしている》が4番目に、《選手との良好な関係性を構築できない》が6番目に多くのMU数を得ていることか

らも強調される。教わりたい指導者像にて6番目に多くのMU数を得た【選手の動機が内在化するように支援を行う】、そして教わりたくない指導者像において《選手の動機の外在化を促進させる》が最も多くのMU数を得ていることから、選手の主体的な取り組みを大切にしてくれること、そのための適切な支援を指導者に求めていると考えられる。

以上のような多くのMU数を得たカテゴリから、高校球児は、選手の競技力を向上させる確かな指導力を有しながらも選手の主体的な活動を支援し、明るさや愛情を持って選手と接し、親密な関係を築いてくれる指導者に教わりたいと思う傾向があり、インテグリティに欠けた指導者に教わりたくないと思う傾向にあると考えられる。

## 2. コーチング学の立場からのカテゴリの概観

次に、各カテゴリについて考察していく。「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」同士でカテゴリの意味内容が対になっているケースが多くあるため、その場合は合わせて考察を行うこととする。

【活気に溢れた性格をしている】《活気のない性格をしている》、【温かみのある性格をしている】《温かみに欠けた性格をしている》、【誠実な性格をしている】《不誠実な性格をしている》、【理性的な性格をしている】《感情的な性格をしている》の4つの性格に関するカテゴリでは、これらの性格特性から厳しい姿勢で接する指導者よりも温和で親しみがあり、誠実な指導者を求めていることがうかがえる。石川（2016）はMayerら複数の研究（Mayer, et al., 1995; Schindler & Thomas, 1993）を参考に信頼関係の構築のためには「有能であること」、「誠実であること」、「慈悲深いこと」、「開放的であること」、「公正であること」、「一貫性があること」が重要であると述べており、今回の結果はこれを支持するものであった。

「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」の対になっているカテゴリ同士のMUを足した場合、性格に関するカテゴリの中で最も多くのMU数が得られた【活気に溢れた性格をしてい

る】《活気のない性格をしている》では、指導者に陽気さを求めている回答が多く見られた。指導者のユーモアの効果を調べた研究では、ユーモアのあるヘッドコーチとそのヘッドコーチのことが好きと答える選手との間に強い関係があることが示唆されている（Grisaffe, et al., 2003）。【理性的な性格をしている】《感情的な性格をしている》では、勝利を追求するあまり感情的になってしまうような指導者ではなく、常に冷静に指導してくれる指導者を求めている回答が多く見られた。指導者の情熱には執着的情熱と調和的情熱がある（Vallerand, et al., 2003）。執着的情熱とは指導者が自分自身の名声や評価などを得ることばかり考えているような情熱であり、調和的情熱とは、選手と指導者が共に尊重し合い、さらなる向上を目指して共に努力するような情熱である。これらの情熱は指導者の指導スタイルに影響し、結果的に選手との人間関係に影響を及ぼすことが報告されており、ここでは調和的情熱が、よりよい人間関係をもたらすとされている（Lafrenière, et al., 2011）。以上のことから、選手の要望に応じていくためには、指導者自身がどのような情熱に基づき指導しているのか自己分析を行い、石川の挙げた信頼関係の構築のための6つの条件をどれだけ満たしているのかについて日々省察し、改善していくことが大切であると考えられる。さらに日々の指導にユーモアを交えることも、選手の要望に応え、よりよい関係を築いていく上では必要なことであるといえる。

【選手の理解が深まる指導を心掛ける】《選手の理解を促進させる指導ができない》では、「教わりたい指導者像」において最も多くのMU数を得ており、「教わりたくない指導者像」では3番目に多くのMU数を得ていることから指導者に対する要望において優先順位の高いカテゴリであることが予想される。ここでは丁寧で的確な指導を求めている回答が多く見られた。伊藤（2017）は、「コーチが教えたからといって選手が学ぶわけではなく、選手が学んだ時にコーチは教えたといえる」と述べている。指導者は選手の理解を常に意識して指導にあたっていく必要があるといえる。

【豊かな専門的知識がある】《専門的知識が乏しい》では、指導者の知識量や経験値を求める回答が多く見られた。専門的知識は緒言で述べた通り、指導者に必要な3つの知識の中の1つとして重要視されている (Côté & Gilbert, 2009)。【選手の能力を最大限に高めようとする】というパフォーマンス向上のための支援者としての指導者の能力への期待や、【質の高い練習を行う】《質の低い練習を行う》や【心身の状態に配慮する】《心身の状態に配慮しない》、【チーム力を最大化させることができる】《チーム力を最大化できない》という要望に応えていくためにも様々な専門的知識を身につける必要がある。専門的知識の学び方としては、セミナーや資格制度のプログラムなど他者との直接的な関わりによって学ぶ媒介学習と、指導現場での自身の経験から得られる学びなど他者との関わりがない状態で学ぶ非媒介学習がある (ICCE et al., 2013)。指導者は、省察を通したより深い学びの中で両方の学習を行っていき、認知していく知識のことである宣言的知識だけでなく、認知したものをどう使うかといった手続的知識もバランス良く獲得していく必要がある (伊藤, 2017)。

【選手との良好な関係性の構築を心掛ける】《選手との良好な関係性構築できない》、【ポジティブな雰囲気を作り出す】《ポジティブな雰囲気を作り出さない》、《精神主義的な考え方をする》、これら3つのカテゴリからは、選手が従来の「指導者は家父長的な権威を持ち、成員はそれに逆らえない状況にある」(阿江, 2000) ような構図ではなく、指導者との親密さや明るい雰囲気を求めていることがうかがえる。特に【選手との良好な関係性の構築を心掛ける】は「教わりたい指導者像」において3番目に多いMU数を得ており、選手が関係を重要視していることがうかがえる。ラポール<sup>注1)</sup>を構築するためには非言語行動が不可欠であり、その中でも笑顔は強い影響を持つとされている (Heintzman et al., 1993)。この点からも、笑顔で選手と関わっていくことが選手の要望に応えることに繋がるとも考えられる。

【選手の動機が内在化するように支援を行う】

《選手の動機の外在化を促進させる》では、制御行動をとらず、主体性を重んじてくれる指導者を求める回答が多く見られた。制御行動とは、選手に対する指導者の行動であり、「有形の報酬」、「制御的フィードバック」、「過度な個人制御」、「脅迫的ふるまい」、「自我関与の促進」、「条件付きの報酬」の6項目から構成されている (Bartholomew, et al., 2009)。これらは外発的動機付けに分類されるものであり、選手の主体的で意欲的な野球への取り組みを考えると内発的な動機を引き出す必要があると考えられる。内発的な動機による自律的な行動を促すためには、人間が生まれながらに持っている3つの基本的心理欲求である、自律性の欲求、有能感の欲求、そして関係性の欲求を満たす必要があるとされている (Ryan & Deci, 2000)。これら3つの欲求を満たし、選手の内発的な動機による自律的な行動を促していくためには、前提として良好な社会的要因、つまり指導者と選手との良好な関係が重要であるとされている。今回の結果では、〈制御行動をとる〉が「教わりたい指導者像」も含めた全てのサブカテゴリの中で最も多くのMU数を得ていることから、過度な制御行動は選手との信頼関係を著しく損なう可能性があり、3つの基本的心理欲求の充足に負の影響を及ぼす可能性があると考えられる。この点からも過度な制御行動は避けていきたいところである。そして、指導者は選手との良好な関係を築きながら、自律性支援行動をとることが3つの欲求を満たし、選手の内発的な動機による自律的な行動を促していくために効果的であるとされている (Mageau & Vallerand 2003)。自律性支援行動は、「ルール・制限の中で選択肢を与える」、「タスクや制限についての根拠を提示する」、「他の人の感情や観点を認める」、「アスリートが主体的かつ自主的に行動する機会を与える」、「制御したフィードバックをしない」、「制御する行動を避ける」、「選手の自我関与を防ぐ」、の7項目から構成されており、これらの行動を指導者が行うことによって、選手の動機の内在化が促進され、自発的且つ自主的な行動を促すことが可能であるとされている。それだけでなく、自律性支援行動を

取り入れることで、選手がより高いパフォーマンスや幸福感を得られる可能性があるとも報告されている (Mageau & Vallerand 2003)。この点からも内発的動機づけを促す自律性支援行動による指導が必要であると考えられる。ただし、今回の結果では少数であったが【選手の能力を最大限に高めようとする】カテゴリにおいて、成長のために厳しく指導をすることを望む回答や、【厳しさと優しさを効果的に使い分ける】《指導に甘さがある》というカテゴリが出現するなど指導者へ厳しさを求めている選手もいることには注意が必要である。そして、ここでいう「厳しさ」とは、体罰などの暴力や暴言などによるものではなく、選手がより高いレベルに達するために必要な厳しさであると考えられる。卓越したパフォーマンスを発揮するためには、デリバレット・プラクティス (意図的、計画的で高度に構造化された練習) を継続して行うことが効果的であるとされている (Ericsson, et al., 1993)。以上のことから、選手の要望に応じていくためには、全てを自律性支援行動にするという考えではなく、過度な制御行動を避け、選手の能力を最大限に高めることを目的としてそれぞれの文脈に応じた方法を選択していくことが重要であると考えられる。

【人間性を高める指導を行う】《人間性を高める指導をしない》では、社会性や精神性を高めてくれる指導者を求める回答が多く見られた。岡子 (2014) は競技力向上だけでなく、人間力の向上も目指した「ダブルゴール」の重要性を述べている。選手の間接力を高めるためには、「育成行動」が必要とされ、それに要求される能力は、「心理学的な知識・経験・スキル、コミュニケーションに関する知識・経験・スキル、カウンセリングに関する知識・経験・スキル、教育学的な知識・経験・スキル、感情コントロールに関する知識・経験・スキル」の5つであると述べている。以上のことから、指導者は、選手の要望に応じていくためにこれら5つの能力を身につけていくことが必要であると考えられる。

【指導に偏りが無い】《指導に偏りがある》では、日頃の選手に対する臍屑や差別、選手選考を行う

上での公平性を求める回答が多く見られた。石川 (2016) は公正さを考える上で組織公正感という概念について述べている。組織公正感とは、職場において何が公平で正しいか、ということについての全体的な知覚であり、分配的公正感 (配分された量に関する公正感)、手続き的公正感 (報酬量が決定されるプロセスに関する公正感)、関係的公正感 (職場で受けている敬意に関する公正感) の3つの要因があると述べている。そして、これら3つの公正感をメンバーが感じられるよう指導することが信頼関係の構築に繋がっていくと述べている。ここで述べられていることは、企業組織に関することであるが、スポーツの分野にも当てはまると考えられる。

【質の高い練習を行う】《質の低い練習を行う》では、効率性を求める回答が多く、【心身の状態に配慮する】《心身の状態に配慮しない》では、適切な休養を求める声が多く見られた。桑田 (2010) は、プロ野球選手にアンケートをとり、半数以上が「高校時代にオーバーワークによる怪我を経験したことがある」と回答した結果から非効率的・非合理的な野球の練習に警鐘を鳴らしている。この点からも高校野球指導者は、選手の技能向上や障害予防のためにも効率的で合理的な練習方法について常に考えていく必要がある。

【チーム力を最大化させることができる】《チーム力を最大化できない》では、指導者のビジョンの明確さや采配の上手さ、その延長線上にある試合での勝利を求める回答が多く見られた。「スポーツ・コーチングに関する国際枠組み (ISCF) (ICCE et al., 2013) では、指導者が果たすべき主な役割の1つとして「ビジョンと戦略の設定」が挙げられている。この点からも指導者は、この役割を十分に果たし選手を勝利に導いていくために、知識や経験を積んでいく必要がある。

### 3. 本研究の課題

本研究は、S県という限定的な範囲で行った調査である。対象校の選定によって結果が異なる可能性も考えられることから、本研究の結果をより普遍的なものにしていくためには、今後、広域な

範囲で調査を行う必要があると考えられる。さらに、選手の学年や、競技力、キャリアプランなど様々な文脈における「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」の特徴を明らかにしていくことも本研究結果を深めていく上で必要な手続きであると考えられる。だが、仮に様々な文脈に応じた普遍性の高い結果が得られたとしても、その結果が全ての高校球児に当てはまるとは限らない。なぜなら、指導者と選手の関係は、互いの認知、感情、行動が相互に関係し合って成り立つものであり、この関係は動的で、時間とともに変化する (Jowett & Poczwardowski, 2007) 複雑なものだからである。指導者は、様々な文脈を読みとりながら混沌の中での即興 (Cushion, 2007; Mallett, 2007) を行い、選手との良好な関係を築いていく必要があると考えられる。ただし、本研究結果のような集合体としてのデータは、普段容易には知ることができない高校球児が抱く指導者像の要素を知ることができ、指導者側の考えのみによって進められがちな指導に新たな視点を提供できるものである。つまり、高校野球指導者が自身の指導方法を考えていく上での材料となるという点で非常に意味のあるものだと考えられる。さらに、学びの主体者である選手を中心にした指導の重要性が報告されている (Kidman, 2010; 伊藤, 2015) 中で、本研究の結果に基づき、高校野球の指導の在り方について議論していくことが高校野球文化の更なる発展に繋がっていくとも考えられる。本研究の結果が、高校野球指導者と高校球児との関係性の向上、さらには高校野球文化の更なる発展に貢献できれば幸いである。

## VI. 結論

S 県高等学校野球連盟に所属する公立高校の高校球児 241 名から得られた有効回答をもとに、「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」について質的分析方法を参考に分析した結果、「教わりたい指導者像」、「教わりたくない指導者像」ともに 16 のカテゴリを得ることができた。高校球児は、選手の競技力を向上させる確かな指導力

を有しながらも選手の主体的な活動を支援し、明るさや愛情を持って選手と接し、親密な関係を築いてくれる指導者に教わりたいと思う傾向があると考えられ、インテグリティや明るさに欠け、選手と良好な関係を築くことができない指導者に教わりたくないと思う傾向があると考えられる。考察でも述べているように、本研究結果で明らかになった選手の要望を高校野球指導者が参考にしていくことは、高校野球指導者と選手との良好な関係の構築にとどまらず、選手のパフォーマンスの向上や、心理的幸福感の充足に繋がっていくとも考えられる。以上のことから、日々、学びの主体者である選手の声に耳を傾け、自身の行動を省察し指導力を高めていくことがこれからの高校野球指導者にとって大切なことであるといえる。

## VII. 注記

注 1) 互いに親しい感情が通い合う状態。

## 謝辞

本研究のアンケート調査や論文の執筆を行うにあたり、多くの方々にご支援ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

## 文献

- 阿江美恵子 (2000) 運動部指導者の暴力的行動の影響：社会的影響過程の視点から。体育学研究, 45(1): 89-103.
- Bartholomew, K. J. , Ntoumanis, N. & Thøgersen-Ntoumani, C. (2009) A review of controlling motivational strategies from a self-determination theory perspective: Implications for sports coaches. *International Review of Sport and Exercise Psychology*, 2(2): 215-233.
- Côté, J. , Salmela, J. H. , Baria, A. & Russell, S. J. (1993) Organizing and interpreting unstructured qualitative data. *The Sport Psychologist*, 7: 127-137.
- Côté, J. & Gilbert, W. (2009) An integrative definition of coaching effectiveness and expertise. *International*

- Journal of Sports Science and Coaching, 4(3): 307-323.
- Cushion, C. (2007) Modelling the Complexity of the Coaching Process A Response to Commentaries. *International Journal of Sports Science and Coaching*, 2(4): 427-433.
- Ericsson, K. A. , Krampe, R. T. & Tesch-Römer, C. (1993) The Role of Deliberate Practice in the Acquisition of Expert Performance. *Psychological Review*, 100(3): 363-406.
- 福島治・佐藤静香 (2007) 魅力と対人関係. 潮村公弘・福島治 (編) 社会心理学概説. 北大路書房: 京都, pp.82-91.
- Greenleaf, C. , Gould, D. & Dieffenbach, K. (2001) Factors influencing Olympic performance : Interviews with Atlanta and Nagano U.S. Olympians. *Journal of Applied Sport Psychology*, 13: 154-184.
- Grisaffe, C. , Blom, L. C. & Burke, K. L. (2003) The effects of head and assistant coaches' uses of humor on collegiate soccer players' evaluation of their coaches. *Journal of Sport Behavior*, 26(2): 103-108.
- Heintzman, M. , Leathers, D.G. , Parrott, R. L. & Cairns, III . A. B. (1993) Nonverbal Rapport - Building Behaviors' Effects on Perceptions of a Supervisor. *Management Communication Quarterly*, 7(2): 181-208.
- International Council for Coaching Excellence, Association of Summer Olympic International Federations. & Leeds Metropolitan University. (2013) International Sport Coaching Framework Version 1.2. Human Kinetics: USA.
- 石川淳 (2016) シェアド・リーダーシップ: チーム全員の影響力が職場を強くする. 中央経済社: 東京.
- 伊藤雅充 (2015) 特集 変わりゆくスポーツと科学 (パート8)アスリート・センタード・コーチング. *Strength & conditioning journal*, 22(9): 13-20.
- 伊藤雅充 (2017) コーチとコーチング. 日本コーチング学会 (編) コーチング学への招待. 大修館書店: 東京, pp.12-25.
- Jowett, S. & Cockerill, I. (2002) Incompatibility in the coach-athlete relationship. In I. Cockerill (Ed.) *Solutions in sport psychology*, Thomson Learning: London, pp.16-31.
- Jowett, S. & Poczwardowski, A. (2007) Understanding the Coach Athlete relationship. In S. Jowett & D. Lavallee (Eds.) *Social Psychology in sport*, Human Kinetics: USA, pp.3-14.
- Kidman, L. (2010) *Athlete-centred coaching: Developing decision makers*, IPC Print Resources.
- 公益財団法人日本体育協会 (2015) 平成26年度コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」の作成事業報告書.
- 公益財団法人日本体育協会 (2016) 平成27年度コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」の作成事業報告書.
- 桑田真澄・川名光太郎・間仁田康祐・平田竹男 (2010) アマチュア野球の抱える課題に関する研究—現役プロ野球選手に対するアンケートをもとに—. *スポーツ産業学研究*, 20(1): 91-95.
- Lafrenière, M.-A. K. , Jowett, S. , Vallerand, R. J. & Carbonneau, N. (2011) Passion for coaching and the quality of the coach-athlete relationship: The mediating role of coaching behaviors. *Psychology of Sport and Exercise*, 12: 144-152.
- Mageau, G. A. & Vallerand, R. J. (2003) The coach-athlete relationship: a motivational model. *Journal of Sports Sciences*, 21: 883-904.
- Mallett, C. (2007) Modelling the Complexity of the Coaching Process: A commentary. *International Journal of Sports Science and Coaching*, 2(4): 419-421.
- Mayer, R. C. , J. H. Davis. , & F. D. Schoorman. (1995) An integrative model of organizational trust. *Academy of Management Review*, 20(3): 709-734.
- 文部科学省スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース) (2013) スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース) 報告書 私たちは未来から「スポーツ」を託されている—新しい時代にふさわしいコーチング—.

- 文部科学省コーチング推進コンソーシアム (2015) 新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて～グッドコーチに向けた「7つの提言」～.
- 森岡浩 (2015) 高校野球 100 年史. 東京堂出版: 東京.
- 野老稔・坂井和明 (2005) コーチングスキル構築のための基礎的研究: 体育系女子大学生が描く理想的なコーチ像を手がかりに. スポーツ方法学研究, 18(1): 11-22.
- Ryan, R. M. & Deci, E. L. (2000) Intrinsic and extrinsic motivations: Classic definitions and new directions. *Contemporary Education Psychology*, 25: 54-67.
- Schindler, P. L. & Thomas, C. C. (1993) The structure of interpersonal trust in the workplace. *Psychological Reports*, 73(2): 563-573.
- 會田宏・舟木浩斗 (2011) ハンドボールにおけるコーチング活動の実践知に関する質的研究: 大学トップレベルのチームを指揮した若手コーチの語りを手がかりに. *コーチング学研究*, 24(2):107-118.
- 杉山雅宏 (2017) 人間関係の心理: 自己理解・他者理解. 日本人間関係学会 (編) 人間関係ハンドブック. 福村出版: 東京, pp.45-49.
- Vallerand, R. J. , Blanchard, C. , Mageau, G. A. , Koestner, R. , Ratelle, C. , Léonard, M. , Gagné, M. & Marsolais, J. (2003) Les passions de l'ame: On obsessive and harmonious passion. *Journal of Personality and Social Psychology*, 85(4): 756-767.
- 関子浩二 (2014) コーチングモデルと体育系大学で行うべき一般コーチング学の内容. *コーチング学研究*, 27(2): 149-161

(平成 30 年 4 月 9 日受付)

(平成 30 年 12 月 6 日受理)